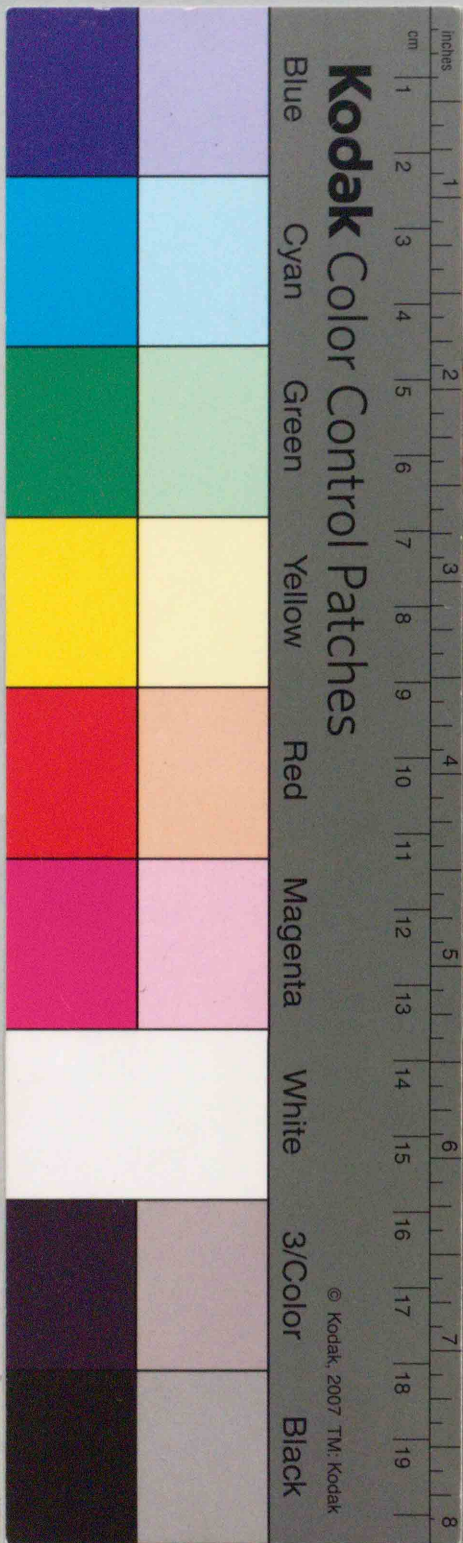


40997

教科書文庫

4
760
32-1935
01304
49484

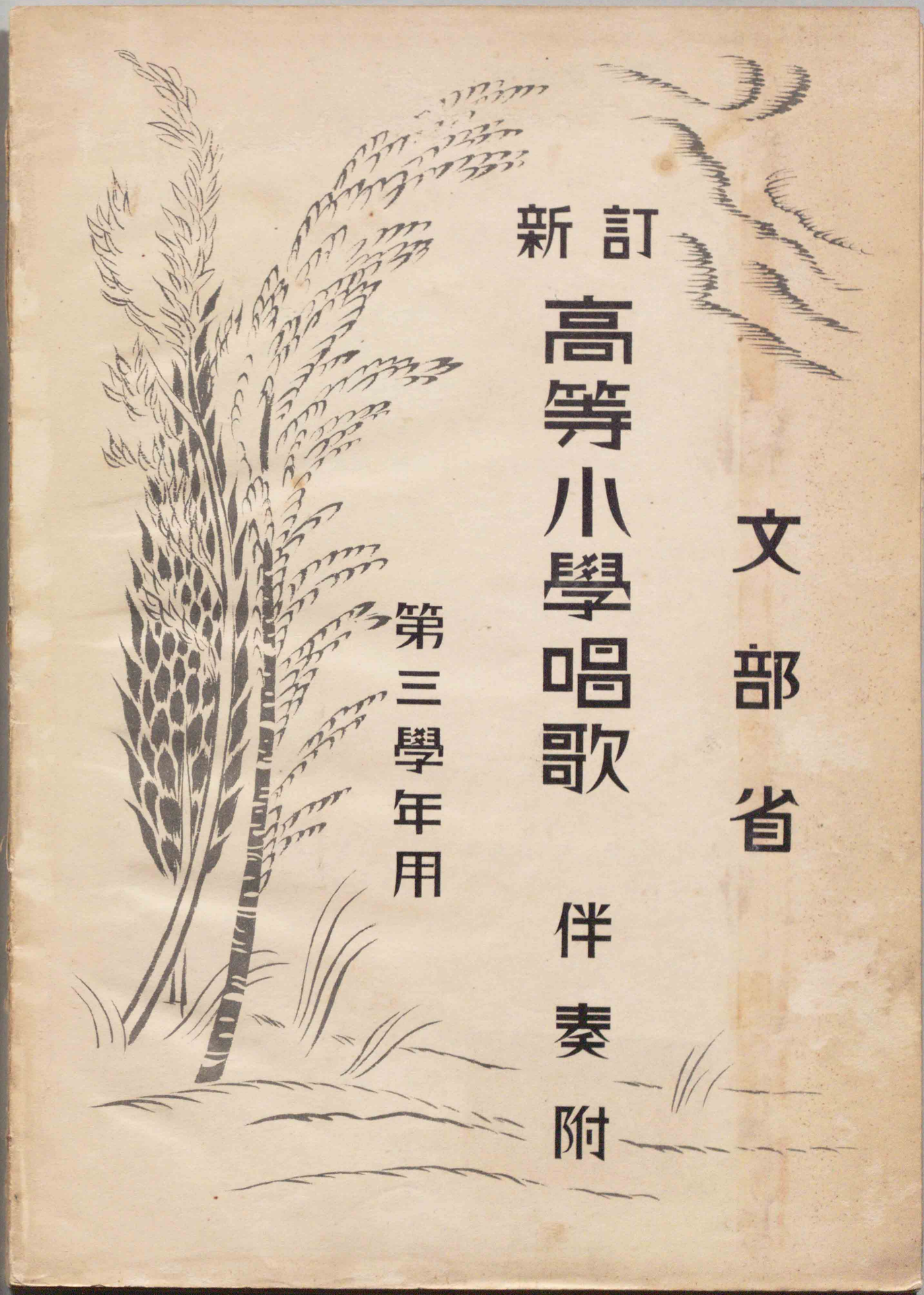


Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



新訂

高等小學唱歌

伴奏附

文部省

第三學年用





緒 言

- 一、本書ハ、音楽教育ノ進歩ト時代ノ要求トニ鑑ミ、高等小學校唱歌科ノ教科用トシテ、新ニ編纂セルモノナリ。
- 二、本書ハ、各學年ソレゾレ男子用ト女子用トニ分チテ編纂シ、第一・二學年用ハ各二十二章、第三學年用ハ二十四章トセリ。而シテ、第一・二學年用中ノ各十五章及ビ第三學年用中ノ十九章ハ、男子用・女子用共通ノ教材、他ハ、男子用・女子用ノ別ニ從ヒテ、歌詞・樂曲トモニ相異ナルモノヲ以テ充テタリ。
- 三、本書ノ歌詞及ビ樂曲ハ、歌詞ニ高等小學讀本・農村用高等小學讀本中ノ韻文ノ一部ヲ採用セル以外、總ベテ本省ノ新作ニ係ル。
- 四、本書ノ教材排列ハ、程度ノ難易ノミニヨラズ、一面、歌詞ニ示サレタル季節・行事ニ就キテモ考慮セリ。
- 五、本書ハ、取扱者ノ便宜ノタメ、唱歌曲ノミノ樂譜ヲ掲ゲタルモノト、伴奏附ノ樂譜ヲ掲ゲタルモノト、二種類作製セリ。但シ、後者ハ、男子用・女子用共通ノモノ、男子用・女子用各別ノモノヲ併セ掲ゲタルヲ以テ、各卷二十九章ヨリ成ル。
- 六、本書ノ樂曲ハ、事情ニヨリ、伴奏ヲ附セズシテ授クルモ差支ナシ。然レドモ、伴奏ヲ附スルコトニヨリテ、タダニ歌唱ニ便スルノミナラズ、ナホ歌曲ノ興趣ヲ増進セシムルコトヲ得ベシ。



七、 唱歌曲ノミヲ掲ゲタルモノニ於テハ、伴奏ノ前奏・間奏・後奏ノ部分ニ對シテ、必要ナル休止符ヲ附シ、又ハ休止符ト併セテ當該箇所ノ伴奏ノ主要旋律ヲ記シ、以テ歌唱ニ便ナラシメタリ。

八、 本書ノ唱歌曲中、重音ノ箇所ハ、事情ニヨリ、上部主要旋律ノミヲ採リ、單音唱歌トシテ課スルモ妨ゲナシ。其ノ際ニハ、正規ノ場合ト同一ノ伴奏ヲ附スルコトヲ得。

九、 本書ノ樂譜ニ配當セル歌詞ノ記法ハ、概シテ<sup>新訂</sup>尋常小學唱歌ニ準ゼルモ、其ノ間、ナルベク發音上ノ實際ニ適切ナラシメンタメ、更ニ新ナル考慮ヲ加ヘタリ。

〇、 本書ノ樂曲ハ、概ネ中等諸學校ノ初年級並ビニ青年學校等ニ於テモ使用スルコトヲ得ベシ。

一、 第三學年用ノ樂曲ハ、第一・二學年用ニ比シテ稍特色ヲ有スルモノ多シ。事情ニヨリ、コレヲ第一・二學年ノ補助・參考又ハ鑑賞教材トシテ運用スルモ妨ゲナシ。

昭和十年七月

文 部 省

目 次

		男子用	女子用
一	皇 國 (三部合唱) .....	一... 2	一... 2
二	花 見 .....	二... 6	二... 6
三	歡 喜 (二部合唱) .....	三... 10	三... 10
四	若 き 我 等 .....	四... 16	四... 16
五	園 藝 .....	五... 20	五... 20
六	煙 .....	六... 22	六... 22
七	曉 の 調 (三部合唱) .....	七... 26	七... 26
八	北 條 時 宗 .....	八... 32	
九	朝 の 海 .....	九... 34	八... 32
一〇	人 は 信 ず .....	一〇... 38	
一一	舟 歌 .....	一一... 42	
一二	古 沼 の 藻 の 花 .....	一二... 44	九... 36
一三	秋 の 調 (三部合唱) .....	一三... 48	一〇... 40
一四	靜 夜 曲 .....		一一... 44
一五	月 光 .....		一二... 48
一六	長 柄 堤 の 訣 別 .....	一四... 52	
一七	福 原 遷 都 .....	一五... 56	一三... 54
一八	月 夜 の 田 園 .....	一六... 60	一四... 58
一九	稻 刈 .....	一七... 66	一五... 64
二〇	甲 冑 堂 .....		一六... 70
二一	山 茶 花 三 題 .....	一八... 72	一七... 74
二二	煤 掃 (二聲輪唱) .....	一九... 76	一八... 78
二三	日 の 御 旗 .....	二〇... 80	一九... 82
二四	千 鳥 .....		二〇... 86
二五	新 島 守 .....	二一... 84	二一... 90
二六	冬 の 興 .....	二二... 88	
二七	興 國 の 民 (二部合唱) .....	二三... 92	二二... 94
二八	胡 蝶 の 舞 (獨唱及び三部合唱) .....		二三... 100
二九	大 原 御 幸 .....	二四... 98	二四... 116



# 皇 國

(三部合唱)

皇  
國

♩ = 72  
*mp*

Three vocal staves (I, II, III) and a piano accompaniment. The music is in 4/4 time with a key signature of three sharps (F#, C#, G#). The tempo is marked as ♩ = 72 and the dynamic as *mp*. The lyrics are: 一 スメラ ミクニノ オホキミハ 二 すめら みくにの たみぐさは 三 スメラ ミクニノ イシズエハ

♩ = 72  
*mp*

Three vocal staves and a piano accompaniment. The lyrics are: ミツノミ タカラ ウケツギテ あかきまごころか たむけて チヨニヤ チヨニユル ギナシ カタキイ ハネニ フトバシラ

二

皇  
國

*mf*

Three vocal staves and a piano accompaniment. The lyrics are: ヲサメタ マヘリ オホヤシマ つくしは げめり ひとすぢに タテテサ カエテ ヒロゴリテ

*mf* *f*

Three vocal staves and a piano accompaniment. The lyrics are: ミイツタフ トクアキ ラケク あかきまごころか たむけて チヨニヤ チヨニユル ギナシ

三

\* 終の二小節は括弧内の音を用ひて四聲となすことを得。



三、 皇國の いしずゑは、  
 かたき 巖根に、 太柱 建てて 榮えて、 ひろごりて、  
 千代に 八千代に ゆるぎなし。

二、 皇國の 民草は、  
 君の 御たてと、 かしこみて 盡くしはげめり、 ひとすぢに、  
 赤き 真心 かたむけて。

一、 皇國の 大君は、  
 三つの 御たから うけつぎて をさめたまへり、 大八洲  
 御稜威たふとく、 あきらけく。

一、 皇 國

花 見

♩ = 116

8<sup>va.</sup>

*f* *p* *sf* *mf* *mp*

一 イ      一 ザ      ユ      カ      シ      ハ      ナ      ミ      ニ      一      ノ      ト  
 二 あ      一 な      た      の      し      は      な      み      は      一      わ      か  
 三 ア      一 ア      ウ      レ      シ      ハ      ナ      ミ      ル      一      コ      コ



花  
見

ケ キ ハ ル ノ ヒ ヲ ー ラ ン  
 き も お いた る も ー う ち  
 ロ ハ ナ ニ オ モ フ ー コ ト

*mf*

マ ン ト サ ク サ ク ラ ノ ハ  
 つ れ て さ く さ く ら の は  
 モ ナ ク サ ク サ ク ラ ニ ト

*f*

ナ ー カ ゲ ニ ー タ ノ シ ク ア ソ ビ  
 な ー か げ に ー し た し く あ そ び  
 リ ー ノ ゴ ト ー タ ノ シ ク ア ソ ビ

*mf*

六

花  
見

ク ラ サ ン ー タ ノ シ ク ア ソ ビ  
 よ ろ こ ぶ ー し た し く あ そ び  
 タ ハ ム ル ー タ ノ シ ク ア ソ ビ

*mp*

ク ラ サ ン  
 よ ろ こ ぶ  
 タ ハ ム ル

*mp* *cresc.*

*poco rit.* *a tempo*

*poco rit.* *a tempo*

*f* *sf*

七



二、花見

一、いざゆかん 花見に。

のどけき 春の日を

爛漫と 咲く 櫻の 花かげに、

たのしく あそび 暮らさん。

たのしく あそび 暮らさん。

二、あなたのし、花見は。

若きも、老いたるも

うち連れて、 咲く 櫻の 花かげに、

したしく あそび 喜ぶ。

したしく あそび 喜ぶ。

三、ああうれし、花見る

こころは、何おもふ

こともなく、 咲く 櫻に 鳥のごと

たのしく あそび 戯る。

たのしく あそび 戯る。



# 歡 喜

(二部合唱)

歡

喜

♩ = 112

♩ = 112 軽く朗かに

*mf*

一 ノ ニ ヤ マ ニ コ ト リ ナ クー ヒ  
 二 う み ひ ろ く よ も に め ぐー り  
 三 チ ノ メ グ ミ テ ン ノ メ グー ミ  
 四 ひ は そ ら に た か く の ぼー り

*mf* 軽く朗かに

一 ノ ニ ヤ マ ニ コ ト リ ナ クー  
 二 う み ひ ろ く よ も に め ぐー  
 三 チ ノ メ グ ミ テ ン ノ メ グー  
 四 ひ は そ ら に た か く の ぼー

*mf*

歡

喜

カ ス ミ ノ オ ク ニ キ ソ ヒ サ キー テ  
 み づ う み な が れ い た る と こー ろ  
 ヤ マ べ く も ノ な が べ ぬ ム ラ ニ サ トー ニ  
 は や く お お き に て わ ざ に は げー む

ヒ カ ス ミ ノ オ ク ニ キ ソ ヒ  
 り み ヤ づ う み な が れ い た る  
 り は や く お お き に て わ ざ に

一 ア ク ニ キ ニ ム ラ サ キー  
 一 な が き ひ も く れ し らー  
 一 ク サ ニ ひ も ア マ ネ クー  
 一 こ ら を ほ め あ た た かー

サ キー テー ア ケ ニ キ ニ  
 と こー ろー な が き ひ も  
 サ トー ニー ク サ ニ キ ニ  
 は げー むー こ ら を ほ め



ニず ハ ナ コ ソ ホ ホ エー メ ハ --- ル ---  
 テ お よ き を き め ふ や な --- つ ---  
 き ミ ノ リ モ ユ タ ケ キ ア --- キ ---  
 ひ かり に か が や く ふ --- け ---

ム ラ サ キ ニ ハ ナ コ ソ ホ ホ エー メ  
 れ し ら ず お よ き を き め ふ や  
 ア マ ネ ク テ ミ ノ リ モ ユ タ ケ キ  
 あ た た か き ひ かり に か が や く

ノ クワ ン キ オ ホ ヤ シー マ ヤ マ ト ノ ク ニ ニ  
 の くわ ン き お ほ や しー ま や ま と の く に に  
 ノ クワ ン キ オ ホ ヤ シー マ ヤ マ ト ノ ク ニ ニ  
 の くわ ン き お ほ や しー ま や ま と の く に に

ハ ル ノ クワ ン キ オ ホ ヤ シー マ ヤ マ ト ノ ク ニ ニ  
 な つ の くわ ン き お ほ や しー ま や ま と の く に に  
 ア キ ノ クワ ン キ オ ホ ヤ シー マ ヤ マ ト ノ ク ニ ニ  
 ふ け の くわ ン き お ほ や しー ま や ま と の く に に

ウ マ レ シー クワ ン キ ワ レ --- ラー ノー クワ ン キ  
 う ま れ しー くわ ン き わ れ --- らー のー くわ ン き  
 ウ マ レ シー クワ ン キ ワ レ --- ラー ノー クワ ン キ  
 う ま れ しー くわ ン き わ れ --- らー のー くわ ン き

ウ マ レ シー クワ ン キ ワ レ --- ラー ノー クワ ン キ  
 う ま れ しー くわ ン き わ れ --- らー のー くわ ン き  
 ウ マ レ シー クワ ン キ ワ レ --- ラー ノー クワ ン キ  
 う ま れ しー くわ ン き わ れ --- らー のー くわ ン き



三、歡喜

一、  
 野の 霞の 紅の 花の  
 に、 奥に、 黄に、 紫に、  
 山に、 小鳥なく日、  
 咲きて、  
 春の歡喜。  
 日本國に生まれし歡喜。

二、  
 海廣く 四方にめぐり、  
 湖流に 到るところ、  
 永き日も 暮らさず、  
 泳ぎ日ふや夏の歡喜。  
 日本國に生まれし歡喜。

三、  
 地の 邊に、 野邊に、  
 山の 木に、 村に、  
 草の 木に、 秋の歡喜。  
 實の 木に、 秋の歡喜。  
 日本國に生まれし歡喜。

四、  
 陽は、 空に、 高く昇り、  
 早くも 起きて 業に勵む、  
 子らを 褒め、 温きに、  
 光に、 かがやき、 冬の歡喜。  
 日本國に生まれし歡喜。



# 若き我等

若き我等

♩ = 108

♩ = 108 行進曲風に

*mf*

*mf*

一 ア ラバツ カバニ カ ラルカーゼ  
 二 と はにか はらず お ほぞらーを  
 三 ア シタユフ ーベノ ク モノイーロ

*mf*

一六

若き我等

ヤ マヂ ニ ノ チニ モユールク サ  
 か がや き わ た る ひ かーげ み よ  
 カ ラル ヤ エ ム ヤ シ ジーノ ハ ナ

*p*

キ ヨキヲ ホ コル ワ カウド ノ  
 お それす お ぢず う た か は ず  
 キ ナクハ コ トリ マ フ ハ テフ ー

*f* *mp* *mf*

ア カキチ シ ホノ タカーナリテ キ  
 な ほくた た しく ひとーすぢに た  
 タ エズワ キ ヅル モリーノ ミ ヅ ア

*f* *mp*

一七



ケ イー ツー コ ニ テ タ ガ ス サ ブ タ  
 だ すー すー み ゆ く ゆ く て に は の  
 ア オー モー シ ロ ノ ア メ ツ チ ニ ソ

(non rit.)

へ ナ ル フ シ ノ カ クー ノ ネ フ  
 ゴ み の た か ね 忍 み て あ り  
 カ キ ヲ サ チ ノ ヲ レー ラ カ ナ

(non rit.)

四、若き我等

一、  
 青葉・若葉にかをる風、  
 山路に、野路に、萌ゆる草。  
 清きを誇る若人のあかき血汐の高鳴りて、  
 きけ、何處にて誰がすさぶ、  
 たへなる節の樂の音を。

二、  
 永久にかはらず 大空を  
 輝きわたる 日かげ 見よ。  
 恐れず、おぢず、疑はず、直く、正しく、一寸づに、  
 ただ進みゆく 行手には、  
 望の高嶺 笑みてあり。

三、  
 朝・夕の雲のいろ、  
 かをるや、笑むや、四時の花。  
 來鳴くは小鳥、まふは蝶、たえず湧出る森の水。  
 ああ、おもしろの天地に、  
 若きを幸の我等かな。



園 藝

園  
藝

♩ = 96

*mf* *mp*

一 ハル サ ク タ ネ ハ ア キ ニ マ キ ア キ  
 ニ ち ひ さ き つ ほ み も え づ る は え た  
 ミ ア サ ニ ハ ア サ ノ ヒ カ リ サ シ ヨ ル

*mf* *mp*

サ ク タ ネ ハ ハ ル ニ マ ク ハ ソ ト  
 ニ も ね に も い の ち あ り  
 ニ ハ ヨ ル ノ ツ ユ ズ オ ク

110

園  
藝

*poco rit.* *a tempo* *mf*

ナ ノ サ ク ヒ ラ マ チ ノ ズ ミ ツー  
 だ て が ひ あ る く さ や き に も  
 キ ノ ヌー グ ミ ト チ カ ラ ト ニ ソー

*mf* *poco rit.* *a tempo*

チ カ フ ミ コ ソ タ ノ シ ケ レ  
 の こ そ い は ね し た し み て  
 へ ヨ ヤ ヒ ト ノ マ ゴ コ ロ モ

五、園 藝

二

一、春咲く種は秋にまき、  
 秋咲く種は春にまく。  
 花の咲く日を待ちのぞみ、  
 培ふ身こそ楽しけれ。

二、小さき苔、もえ出る葉、  
 枝にも、根にも命あり。  
 育てがひある草や木に、  
 ものこそいはね、親しみて。

三、朝には朝の光さし、  
 夜には夜の露ぞ置く。  
 時の恵と力とに、  
 添へよや、人のまごころも。



# 煙

♩ = 108

♩ = 108

*f*

*mf* ヲ ムリ ハ ノーボール ア サ ノーソ ラ  
*p* け む り は なーがーる ゆふー べのーそ ら

*mf* ノ ベハ イ マ ー タ ヒ カ グ サ サ ネ ド  
*p* い へい へ す てに き り に し づ め ど

*cresc.*

*mp* ム ラ サ キ ニ ホー フー ヤ マノカヒニ  
*mf* きよ じんの ごーとーくー よう ーろはたち て

*mp* *(mf)* *cresc.*



pp ッ キョヲ ハ ナレメ イ リーヲ ス テ テ  
 f た ぎ る ま が ね の う め きー の な か に

p タフ ート ク スミ ー ナ ス ユ カ シ キ ヒ ト ノ  
 f ぐ れ ん の ほ の ー ほ と た た か ふ ひ と の \*

mf コ コ ロ ヲ サ ナ ガ ラ ナ ビ ク ヨ ソ ラ ヘ  
 を を し き い き を ー は く な り そ ら へ

\* 此の漸弱記號は第二節に適用す。

稍ゆつくりと  
 p シ ヅ カ ニ ト ケ ユ タ ソ ノ シ ロ ケ ム リ  
 f わ き た ち う づ ま く そ の ー く ろ け む り

*un poco meno mosso*



一、 煙は上る、朝の空。  
 野邊はいまだ日影ささねど、紫にほふ山の峽に、  
 浮世を離れ、名利を捨てて、  
 たふとく住みなすゆかしき人の  
 こころをさながら靡くよ、空へ。  
 静かに溶けゆく その白煙。

二、 煙は流る、夕の空。  
 家家すでに霧に沈めど、巨人の如く鎔爐は立ちて、  
 たぎる真鐵のうめきの中に、  
 紅蓮の焰と戦ふ人の  
 雄雄しき意氣をはくなり、空へ。  
 わき立ち、渦巻く その黒煙。

# 暁の調

(三部合唱)

I  
 II  
 III

一カセハリソ  
 ニヒカハリソ  
 一カセハリソ  
 ニヒカハリソ

ヨーギシノノメノイ  
 どーるあさやけのな  
 ヨーギシノノメノイ  
 どーるあさやけのな  
 ヨーギシノノメノイ  
 どーるあさやけのな

con Dec.



ロミハサエタリスキヘイ  
ミにむれとぶかもめど

はやめに (♩=152)

はやめに (♩=152)

mf

un poco più mosso (♩=152)

mf

センリ、カガヤキミチタリ、カガやきみちたり

オホソラニ  
うなほらに

ザメヨメザメヨトクア  
ざめよめざめよとくあ



ア ウル ハ シ キ ア ケ ボ ノ  
あ さ い は ひ の あ か つ き

mp

mp

poco rit. *p* Tempo I  
ヨ ア カ ネ モ ユ ル カ  
よ あ し た は ゆ る か

poco rit. *p* Tempo I  
ヨ ア カ ネ モ ユ ル カ  
よ あ し た は ゆ る か

poco rit. *p* Tempo I  
ア カ ネ モ ユ ル カ  
あ し た は ゆ る か

5 3 5 3 5 4 5 2 4 1  
2 1 2 1 2 1 2 1

poco rit. *p* Tempo I

mp

mp

mp

mp

mp

*p* *mf*

ク カ ソ ガ コ コ ロ ア ア カ  
く か わ が の ぞ み あ あ か

*p* *mf*

*p* *mf*

*p* *mf*



ケ - リ - ユ ク カ ソ ガ コ コ  
 け - り - ゆ く か わ が の べ

ケ - リ - ユ ク カ ソ ガ コ コ -  
 け - り - ゆ く か わ が の べ -

ケ - リ - ユ ク カ ソ ガ コ コ -  
 け - り - ゆ く か わ が の べ -

1. 次第に速めて *più f*

1. 次第に速めて *più f*

1. 次第に速めて *più f*

1. *f accel.*

*rit.*

*rit.*

*rit.*

*più f* *dim.* *rit.*

- - - - Tempo I 2. 次第に速めて *rit. più f*

み あ

- - - - Tempo I 2. 次第に速めて *più f rit.*

み あ あ あ

- - - - Tempo I 2. 次第に速めて *più f rit.*

み あ あ あ

Tempo I 2. *f accel.* *rit.*



七、曉の調

一、三部 風はそよぎ、東雲の色はさえたり、水平線。

一部 輝満ちたり、大空に。曙よ。

三部 茜もゆるる。ああ、ああ、ああ、ああ。

二、三部 光躍る。朝焼の波に群飛ぶ。かもめ鳥。

一部 輝満ちたり、海原に。ああ、ああ、ああ、ああ。

三部 朝榮ゆるる。幸の空に。ああ、ああ、ああ、ああ。



北條時宗

北條時宗

♩ = 92 *mf*

一 ニツ ボ ン コ ク ヲ ア ナ ド レ ル ゲ ン ノ シ シ ヤ  
 ニ いく ひ や く ま ん の て き の ヘ い な に せ ん や  
 ミ シ ッ ケ ン シ ョ ク ノ ナ ヲ ア ゲ テ ヲ ガ キ ミ ト

♩ = 92 *mf*

ト セ イ チ ユ ウ 一 カ マ ク ラ ニ キ ラ シ メ  
 お そ れ ん や た た ら は ま か た め た  
 ク ニ ノ タ メ マ ゴ コ ロ ヲ ツ ク シ タ

*f*

シ サ ガ ミ タ ラ ウ ト キ ム ネ ヨ ア  
 る さ が み た ら う と き む ね よ あ  
 ル サ ガ ミ タ ラ ウ ト キ ム ネ ヨ ア

ア — — — ソ ノ ダ ン カ ウ ソ ノ ユ ウ — キ  
 あ — — — そ の け つ し ん そ の が う — き  
 ア — — — ソ ノ ク ン コ ウ ソ ノ メ イ ヨ

北條時宗

三、 二、 一、

相<sup>ま</sup>模<sup>ご</sup>太<sup>た</sup>郎<sup>らう</sup>の 時<sup>とき</sup>宗<sup>むねね</sup>の 勳<sup>いさな</sup>功<sup>こう</sup>よ、  
 あ、あ、その名<sup>な</sup>譽<sup>よ</sup>を

執<sup>しつ</sup>權<sup>けん</sup>職<sup>しやく</sup>の 國<sup>くに</sup>を 揚<sup>あ</sup>げ、  
 わが君<sup>きみ</sup>と 國<sup>くに</sup>の 名<sup>な</sup>を 揚<sup>あ</sup>げて、

相<sup>ま</sup>模<sup>ご</sup>太<sup>た</sup>郎<sup>らう</sup>の 時<sup>とき</sup>宗<sup>むねね</sup>の 決<sup>けつ</sup>心<sup>しん</sup>よ、  
 あ、あ、その剛<sup>がう</sup>氣<sup>き</sup>を

多<sup>た</sup>多<sup>た</sup>長<sup>ちやう</sup>濱<sup>はま</sup>の 時<sup>とき</sup>宗<sup>むねね</sup>の 決<sup>けつ</sup>心<sup>しん</sup>よ、  
 多<sup>た</sup>多<sup>た</sup>長<sup>ちやう</sup>濱<sup>はま</sup>の 時<sup>とき</sup>宗<sup>むねね</sup>の 決<sup>けつ</sup>心<sup>しん</sup>よ、

何<sup>なに</sup>に せ ん や、 お そ れ ん や、  
 何<sup>なに</sup>に せ ん や、 お そ れ ん や、

幾<sup>い</sup>百<sup>ひやく</sup>萬<sup>まん</sup>の 敵<sup>てき</sup>の 兵<sup>へい</sup>、  
 幾<sup>い</sup>百<sup>ひやく</sup>萬<sup>まん</sup>の 敵<sup>てき</sup>の 兵<sup>へい</sup>、

相<sup>ま</sup>模<sup>ご</sup>太<sup>た</sup>郎<sup>らう</sup>の 時<sup>とき</sup>宗<sup>むねね</sup>の 斷<sup>だん</sup>行<sup>かう</sup>よ、  
 あ、あ、その勇<sup>ゆう</sup>氣<sup>き</sup>を

鎌<sup>かま</sup>倉<sup>くら</sup>に 斬<sup>き</sup>ら 杜<sup>と</sup>世<sup>せい</sup>忠<sup>ちゆう</sup>し  
 鎌<sup>かま</sup>倉<sup>くら</sup>に 斬<sup>き</sup>ら 杜<sup>と</sup>世<sup>せい</sup>忠<sup>ちゆう</sup>し

日<sup>ひつ</sup>本<sup>ほん</sup>國<sup>こく</sup>を あ な ど れ る  
 日<sup>ひつ</sup>本<sup>ほん</sup>國<sup>こく</sup>を あ な ど れ る

八、北條時宗



# 朝の海

朝の海

♩ = 120

♩ = 120 いきいきと

いきいきと

ア サ ハ キ タ レ リ キ ヨ メ ラ レ タ ル ウ ミ ー ズ ラ ー

ニ ー ハ ナ ニ モ ノ モ ミ エ ネ ド ウ ミ ニ ス

三八

朝の海

メ ー ル ム ス ウ ー ノ イ キ モ ノ ヲ フ リ ヒ

レ フ リ カ イ サ ウ ー ノ カ ゲ ヨ リ ガ ン セ ウ ー ノ

ネ ヨ リ オ ノ オ ノ ヤ カ ラ フ ト モ ナ ヒ

のびのびと

ア サ ノ ヒ カ リ フ シ タ ヒ ツ ツ

三九







人は信ず

人は信ず

♩ = 88

mp mf

一 ヒト ハ シ ンズ バクバクタル ア シ ャ ャ  
 ニ ヒ ト ハ シ ンズ カクカクタル タ イ ヤー  
 ミ ヒ ト ハ シ ンズ テンテンタル チ キウー ハ

イツ テン ニ オ ホ ヒ カ ブ サ ル モ  
 せい ざん に し ぶ み か く る る も  
 クワイ テン シ タ エ ズ ヤ マ ザ ル モ

四二

人は信ず

mp mf

カ ナラズ モ ヤ キ エ ク モ サ ン ジ テ ハ  
 か なら ず よ は さ り あ さ ひ ら け て と う  
 カ ナラズ ハ ル ユ キ ナ ツ キ タ リ テ キ

f poco rit.

レ ワ ター ル ヒノ V ア ル コー ト フ  
 ー て んー に V ひ い づ る こー と を  
 ダウ ー ヨー リ V ソ レ ザ ル コー ト フ

一、人は信ず、  
 漠漠たる暗雲  
 一天に覆ひかぶさるも、  
 必ず 霧消え、雲散じて  
 晴れわたる日のあることを。

二、人は信ず、  
 赫赫たる太陽  
 西山に沈み隠るるも、  
 必ず 夜は去り、朝ひらけて  
 東天に日出づることを。

三、人は信ず、  
 轉轉たる地球は  
 廻轉し、絶えず、止まざるも、  
 必ず 春行き、夏來りて、  
 軌道より外れざることを。

四三



舟 歌

舟  
歌

♩ = 96

mf

フ ナ ウ タ ハ キ コ エ  
ニ ふ な び と は み え ね  
三 ヲ チ カ タ ノ フ ナ ヲ

メド タ

ミヅ ノ ホ  
ツノ ノ  
モモ  
ヲに ト  
ワうワ  
タたタ  
リごル  
テゑヲ

シ ツ ケ ク キ ヨ ク コ ノ ヒ ゴ  
の こ り て な が ー し あ さ ま ー だ  
キ キ ツ ツ ソ ー レ ハ ア サ ゴ ー ト

mp

p

四四

舟  
歌

p

dim.

ロ ア サ ナ ア サ ナ ニ  
ニ い づ ち ゆ くら ん  
ニ コ コ ロ サ ヤ ケ シ

p

dim.

一、舟 歌

一、舟歌は 聞えぬ、  
水の面を 渡りて

この日ごろ 朝な 朝なに。  
静けく、清く。

二、舟人は 見えねど、  
水の面に、歌声

朝まだき 残りて 長し。  
朝まだき いづち ゆくらん。

三、遠かたの 舟歌、  
ほのぼのと 渡るを

朝毎に 聞きつつ、  
心に さやけし。

四五







一、古沼の藻の花

一、山の古沼に、

月かげの

雲間を洩れし  
その刹那

水あびるたる  
妖女らの

姿は消えて、

靄はれて、

藻の花の白きが、  
あまた

小さく咲きぬ。

二、城の姫君、

うすぎぬに、

曉早き沼沿の

草露ふみて、  
よろこびの

歌声消えて、

靄はれて、

藻の花の紅きが、  
一つ

大きく咲きぬ。



# 秋の調

(三部合唱)

秋の調

♩ = 132

*mp* (V)

一 ア キ ノ シ ラ ベ ノ ユ カ シ ク  
 二 く も は み そ ら の あ ち こ ち  
 三 ア サ ニ ユ フ ベ ニ シ ラ ツ ユ  
 四 あ か く う れ に し く さ の み

*p* \* (V)

*p* *sempre legato*

(V)

モ — テ ニ ク ム ミ ヅ ノ ナ カ ニ ス  
 に — ゆ き て は か へ り か へ り て  
 ハ — イ ト マ ロ ラ カ ニ キ ヨ ラ ケ  
 に — の の と り さ へ も つ ど ひ き

(V)

五〇

\* 第二聲及び第三聲は歌詞を用はず、唇(口裂)を軽く閉ぢたるまま發音すべし。

秋の調

*mf* (V) *mp*

ラ — ツ キ ノ — カ ゲ サ ヘ ヤ ド ル ナ  
 は — つ き ぬ — さ ま こ そ み す る な  
 ク — ク サ ノ — ハ ズ エ ニ ヤ ド リ ツ  
 て — な く こ ゑ た — か く と も を よ

*mp* (V)

*cresc.* *mp* *p*

リ —  
 れ —  
 ツ —  
 ぶ —

*dim.* *p*



一三、秋の調

一、秋の調のゆかしくも、

手にくむ水の

中にすら、

月のかげさへ宿るなり。

二、雲は、み空のあちこちに

ゆきてはかへり、

かへりては、

盡きぬさまこそ見するなれ。

三、朝に、夕に、白露は、

いとまろらかに

清らけく、

草の葉末に宿りつつ。

四、赤く熟れにし草の實に、

野の鳥さへも

集ひ來て、

鳴く聲高く友を呼ぶ。



静夜曲

静夜曲

$\text{♩} = 80$  *rit.*

$\text{♩} = 80$  静かに

*mp* *rit.*

*And. \* And. \* And. simile*

静かに  
*a tempo*  
*mf*

一マドヲヒラキテアーフキミルト  
ニまどをひらきてあふぎみる

*a tempo*  
*mp* *mf*

ホクカカレルアマノガハ  
ほくなきゆくかーりーがーねよ

*cresc.* *f* *dim.*

五四

静夜曲

*mp*

クモラヌツキハサーエザエト  
くもなきーみそらはーるーばーると

*p* *cresc.* *f*

*mf*

ワガニハノモニテリハエヌウタ  
われもーゆきーたしふるさとーへうた

*mf* *mf*

*f*

ハントモヨカタラントモヨアア  
はんともよかたらんともよああ

*f*

*mp* *rit.*

ーシツカナリヨルーノマドー  
ーしづかなりよるーのまどー

*mp* *rit.* *p*

*And.* \*

五五



一四、静夜曲

一、窓を開きて 仰ぎ見る、

遠くかかれる 天の川。

曇らぬ月は、 さえざえと、

我が庭の面に 照りはえぬ。

歌はん友よ、 語らん友よ。

ああ、 静かなり、 夜の窓。

二、窓を開きて 仰ぎ見る、

遠く鳴きゆく かりがねよ。

雲なきみ空、 はるばると

我も行きまし、 ふる里へ。

歌はん友よ、 語らん友よ。

ああ、 静かなり、 夜の窓。



月光

月光

$\text{♩} = 126$

$\text{♩} = 126$  静かに

*mf* *p* *mp*

静かに *mp*

ネ ム -- レ

*mf* *p* *mf*

*p* *mf*

ネ ム -- レ フ サ ナ -- ゴ ヨ -- ヤ マ ノ -- ツ キ マ ト

*p* *mf*

五八

月光

ヨ リ イ -- リ テ ナ レ ガ -- カ ホ シ ヅ カ ニ -- マ

*mp*

*ten.* *mp* *p*

モ ル -- ネ ム -- レ ネ ム レ

*mf* *mp*

次第に速く

フ サ ナ -- ゴ ヨ --

*p* *mp* *p*

次第に速く

五九



♩ = 108

*mf*

ウテヤ ハ ヤセ ハラツツ ミ

*f* *mf*

*Red.* \* *Red.* \* *Red. simile*

*f* *p* *mp*

ボン ボコボン ボンボコボン ツキハイ マダタ アキハ

*f* *p* *mp*

*mf* *f*

ヨナガダ タヌキノ セカイダ ウテウテウテ

*mf* *f*

*mf*

ウテヤ ハ ヤセ ハラツツ ミ

*mf*

*mf*

ボン ボコボン ボンボコボン

*mf*

*rit.*

次第に消える様に

*rit.*



*mf*  $\text{♩} = 84$

オ ホウ ナ バー ラー ノ

*mf*  $\text{♩} = 84$

*mf*

ソ コ モ ト ド ロ ニ ヨ セ テ ハ カ ヘ ス

*f*

*f*

*Red.* \* *Red.* \* *Red.* \*

*mf*

ナ ミ ナ ミ ナ ミ

*mf*

*Red.* \* *Red.* \* *Red.* \* *Red.* \*

*f*

キ ャ ウ ラ ン ド タ ウ シ ン ニ ヨ ノ ツ ー キ

*f*

*Red.* \* *Red.* \*

*rit.* *a tempo*

ワ ク ナ ミ ニ ツ キ

*rit.* *a tempo*

*p*

*Red.* \*

*mf*

カ ゲ ラ ド リ チ ル ナ ミ ニ ツ キ

*mf* *mf*



一五、月光

ねむれ、ねむれ、幼児よ。  
 山の月 窓より入りて、  
 ねむれ、ねむれ、幼児よ。  
 汝が顔 静かにまもる。

打てや、はやせ、腹鼓。  
 ぼんぼこぼん、ぼんぼこぼん。  
 月は今出た、秋は夜長だ、  
 打てや、はやせ、腹鼓。  
 狸の世界だ、打て、打て、打て。

大海原の底もとどろに、  
 狂瀾怒濤、真如の月。  
 湧く浪に 月影をどり、  
 寄せては返す 浪、浪、浪。  
 散る浪に 月影くたく。  
 寄せては返す 浪、浪、浪。



# 長柄堤の訣別

♩ = 72

*mp*

一 カ タ ギ リ ノ ハ  
 二 ね も や ら ぬ な  
 三 ヲ リ ヤ ラ ニ ハ  
 四 を し ま る る わ

*mf* *mp*

*mf*

カ ラ ヒ モ チ テ サ サ ー ゲ タ ー ル マ  
 や み の い く よ み オ ー け づ ー る う  
 セ ク ル ム シヤ ノ オ ー サ づ シ ー ハ ワ  
 か れ の な み た な き ー あ と ー を た

*mf*

*f*

ゴ コ ロ ー ナ レ ド ー ゼ ヒ モ ナ  
 れ ひ に ー や せ て ー せい ま ぞ す  
 カ ク モ ー ヲ ラ シ て ー いッ ノ ぞ ヒ ト  
 く し た ー の み て ー い ざ さ ら

*mp* *f*

*mf* *mp*

シ ト キ ノ メ グ リ ハ バ ン ジャ ク ノ シ  
 ぐ な が ら づ つ み よ あ か つ き の か  
 ヤ キ ム ラ シ ゲ ナ リ ウ マ オ リ テ ナ  
 ば ヨ く や か つ も と あ り あ け の つ

*mf* *mp*

*poco rit.*

ロ モ ー カ タ ム ク ー  
 ゼ の ー さ む け さ ー  
 ゲ キ ー カ タ ラ フ ー  
 き も ー う す れ て ー

*poco rit.*



一六、長柄堤の訣別

一、片桐のはからひもちて  
 ささげたるまごころなれど、  
 是非もなし、時のめぐりは。  
 磐石の城もかたむく。  
 二、寢もやらぬなやみの幾夜  
 身をけづる憂にやせて、  
 今ぞ過ぐ、長柄堤よ。  
 あかつきの風の寒けさ。

三、折からに馳來る武者の  
 おもぎしは、若くも雄雄し。  
 その人や木村重成  
 馬おりてなげき語らふ。  
 四、惜しまるる別れの涙  
 亡きあとを託し頼みて、  
 いざさらば行くや且元  
 有明の月も薄れて。



福原遷都

福原遷都

♩ = 72

一 カゼモミニシムフ  
二 つきののかがみはな  
三 ノコルカドべニサ  
四 *p*ゆめかうつつかよ

*mf*

クハラノミヤコアラタタニサ  
カゾギにヒカッルリまどかハ  
のキサマはクカッタリマカハ  
のキサマはクカッタリマカハ

*p*

ダマリテクサニスダクヤムシノコ  
カレどもクサヒとニはとろをうろひ  
フカッラフカネのねのねのねのねのね

七〇

福原遷都

*mp*

エ ア キ ノ ナ ガ メ モ フ カ マ リ ス  
て か な た ふ る さ と こ ひ し た ふ  
バ ア サ チ か ハ ラ ト ナ ひ リ ハ テ ッ  
に *p*あ は れ わ か れ し *pp*みやびとよ

一、風も身にしむ福原の  
都あらたに さだまりて、  
草にすだくや、蟲の聲。秋の眺も深まりぬ。

二、月の鏡は、中空に  
光まどかに 懸れども、  
人は所をうつろひて、かなた故郷戀ひしたふ。

三、のこる門邊に咲く黄菊  
朽つる籬にはふかつら、  
ふるき都を来てみれば、浅茅が原となり果てつ。

四、夢か、うつつか、世の様は。  
語りかはして、夜もすがら、  
鐘の音さむき曉に、あはれ別れし宮人よ。

一七、福原遷都

七一



# 月夜の田園

♩ = 88

*rit.*

♩ = 88

*leggiere*

*p*

*rit.*

*dim.*

*non lunga*

*sempre con Acc.*

♩ = 60

*mp*

♩ = 60

*mp*

♩ = 88

*p*

*mp*

*p*

*mp*

*poco rit.*

*poco rit.*



*p* 一段と速く

イ マ ハ シ モ ツ キー ノ ヨ ズ ラ

*più mosso*

*p*

*And. \* And. \* And. \* And. \* And. simile.*

*mp*

ヲ ナ ニ ト リ カ ナ キ ツ

*mp*

*mf*

ツ ト ビ シ ヲ タ リ ユ

*mf*

ク ト リ ニ アル ー ラ ン ツ

*p* (V)

キ ノ ヨ ニ コ ノ ム ラ

*p*

*dim.* *rit.*

ツ ト ヲ

*dim.* *rit.* *dim.*



♩ = 60  
*più p*

ユ ク ミ ヅ ノ オ ト ハ カ ス カ ニ

♩ = 60  
*più p*

シ ヅ カ ニ モ タ ノ モ ハ フ ケ テ

*p* *mp* *p*

ハ ル カ ナ ル モ リ モ ハ ヤ シ モ サ

*più p* *rit.*

エ ソ タ ル ツ キ ヨ ト ナ リ ス

♩ = 88 *rit.*

♩ = 88 *leggiere* *p* *rit.* *dim.* *più p* *pp*



一八、月夜の田園

いつしかに 月のはのぼりて、

しづかなる田の面に さしぬ。

遙かなる森も、 林も、

薄墨に 描ける如し。

今はしも 月の夜空を

何鳥か、 鳴きつつ飛びし、

渡りゆく鳥にあるらん、

月の夜に この村里を。

ゆく水の音はかすかに、

しづかにも 田の面は更けて、

遙かなる森も、 林も、

さえわたる 月夜となりぬ。



稻 刈

稻  
刈

$\text{♩} = 96$

$\text{♩} = 96$  莊重に

*f* *p* *pp*

莊重に

*mp*

ヒハオホゾラニカガヤキソタリデンエンジフーリ

イナホノナミハサヤサヤサーヤトヨロコビヲドル

$\text{♩} = 176$

$\text{♩} = 176$  輕快に

*mp* *leggiero*

八〇

稻  
刈

*poco rit.*

*poco rit.*

*f*

*a tempo* *mf* 輕快に

ヲドレソカムネウシホノゴトクヒコソ

*a tempo*

*mf*

オホキニケフーシモケフゾカラシワガタ

*mp*

*mp*

ノイネヲーシカラン

*f*

八一



$\text{♩} = 60$  *mf* 莊重に  
 サン シュン カウ ラク  
 いん う ろく ぐわつ

$\text{♩} = 132$  優美に  
 ソハタガコトゾ ワレハダイチニクハウチフリテ  
 どろにまみれつ えんてんのもと いかづちのそら

$\text{♩} = 132$   
*mp dolce*

シゼンノムネニ タネマキウエーヌ  
 わがたかひは いさましかりーき

$\text{♩} = 176$  *mp* 輕快に  
*leggiero*

*poco rit.*

*a tempo mf* 輕快に  
 ヤキガマトガマヲメテニトリモチヤツカホ

*a tempo mf*

タリホヲユンデーニニギリザクザクザク

トカルハタガミゾ



♩ = 96 莊重に *mp*

トヨアシハラノ

*mf* *f*

タゴトタゴトニ オシナベテ イマミヅホカルラ

*mf*

ン オホミタカラノ ヒトリハツレ

*rit.*

ゾ

*mp* *rit.* *p*

一九、稻刈

豊	燒	陰	三	返	繰	日
今	左	炎	我	今	躍	稲
お	八	雨	春	日	稲	田
瑞	手	天	打	れ	穂	園
し	束	六	は	こ	の	大
原	つ	く	行	そ	十	空
の	・	の	大	我	波	里
に	鎌	月	地	多	は	に
穂	・	下	そ	胸	輝	き
刈	握	泥	に	今	さ	渡
る	り	に	誰	ぞ	や	り
ら	垂	ま	が	刈	さ	
ん	穂	み	こ	らん	や	
	右	れ	そ	我	さ	
	空	つ	ぞ	が	や	
	を		種	田	と	
	手		蒔	の	喜	
	に		き	稻	び	
	取		植	を	躍	
	り		ゑ	し	る	
	もち		ぬ	刈		
				らん		
お						
ほ						
み						
た						
か						
ら						
の						
一						
人						
は						
我						
ぞ						



# 甲 冑 堂

甲  
冑  
堂

♩ = 76

♩ = 76

*mp* *mf* *p*

*p*

一 ヨ シ ツ ネ ノ 一 ケ ラ イ ト ナ リ テ  
 二 と し わ か き 一 あ に と お と う と  
 三 マ ノ ア タ リ 一 シ ュ ハ カ ヘ レ ド モ  
 四 な ぐ さ め ん 一 い ざ い ざ は は を  
 五 ソ ノ ス ガ タ 一 キ ザ ミ ト ド メ シ

*p*

*mp* *mf*

カ ミ ガ タ ニ 一 ノ ホ リ ユ キ ケ ン  
 を を し く も 一 て き と た た か ひ  
 カ ヘ ラ サ ル 一 コ ラ ノ カ タ ミ ヨ  
 い で た ち し 一 よ め ご の ふ た り  
 カ ツ チ ウ ダ ウ 一 ノ 一 モ ク ザ ウ フ タ ツ

*mp* *mf*

八六

甲  
冑  
堂

*f*

アウ 一 シウ 一 ノ キヤウ 一 ダ イ フ タ リ  
 しウ の た め に い の ち お と し ぬ  
 イ マ シ ミ テ ハ ハ ハ ナ ゲ キ ヌ と  
 た ち と り て カ ぶ り ぬ ガ カ ぶ と  
 ヒ ニ ヤ ケ テ キ エ ウ セ タ レ ド

*f*

1. 2. 3. 4. *mf*

ツ ギ ノ ブ ヨ タ ダ ノ ブ ヨ 一  
 う め か と よ さ く ら と よ 一  
 コ ト ワ リ ヨ ハ ハ ト コ ヨ 一  
 け な げ さ よ や さ し さ よ 一

1. 2. 3. 4. *mf*

5. *p* *più lento*

ナ ド カ ハ ウ セ ン ソ ノ コ コ ー ロ ザ シ

八七



二〇、甲冑堂

一、義經の家來となりて、上方にのぼり行きけん、

奥州の兄弟二人、

繼信よ、忠信よ。

二、年若き兄と弟、

ををしくも敵とたたかひ、

主のため命おとしぬ。

梅かよ、櫻とよ。

三、まのあたり主は歸れども、

かへらざる子等の形見よ、

今し見て母は嘆きぬ、  
ことわりよ、母と子よ。

四、なぐさめん、いざいざ母を。  
いでたちし嫁御の二人、

太刀とりてかぶりぬ、甲。

けなげさよ、やさしさよ。

五、その姿刻みとどめし

甲冑堂の木像二つ。

火に焼けて消失せられたれど、

などかは失せん、そのころざし。



# 山茶花三題

山茶花三題

♩ = 72

♩ = 72

*mf* *p* *mf*

Red. \*

*mp*

一ア サ サム ノ イ ケ ガ キ ニ  
 ニう ら らか に ひ は て れ ど  
 ミユフ 一 ヒカ ゲ ウ ス ル ル ニ

*mp*

ハヤモ キ テ チチト ナ ク コ  
 かぜひ ゆ る とびい し に ひ  
 タダヒ ト リ ハ ハ ウ ヘ ノ シヤウ

九〇

山茶花三題

*p*

トーリ ア リ ヤ ブ ノ ウ チ  
 とーの た つ や ま で ら の  
 ーージ ハ リ ト コ ノ マ ノ

*p*

*mp*

マ フ ユ サ ビ シ ク コ ノ ヒ ゴ ロ サ  
 ま ひ る し づ け き う ら に は に ま  
 カ ケ エ ラ グ ラ キ マ ヘ ニ シ テ クワ

*mp*

*mf* *p*

キ ソ メ シ サ ザ ン ク リ ヲ ヒ ソ カ ニ メ デ テ カ  
 さ かりの さ ざ ん く わ を た を り も か ね て か  
 ビ ン ナ ル サ ザ ン タ ワ ノ オ ト ナ ク コ ボ レ テ

*mf* *p*

九一



シ ヅ エ ガ ク レ ニ ッ ター ヒ キ テ  
 は さ み て に し て せ を ー み せ て  
 チ ル ヲ フ ト ミ テ ホ ホ ー エ ミ テ

*mp* *rit.* *a tempo*  
 チ ナ ク コ トー リ ア リ  
 と び い し ー に ひ と ー の た つ  
 ハ ハ ウ ヘ ノ シヤウ ー ジ ハ リ

*mp* *rit.* *a tempo*

二、山茶花三題

一、  
 朝寒の生垣に、ちと鳴く小鳥あり。  
 はや来の真冬、さびしく、山茶花を、  
 藪の中、頃、真咲き、そめしく、  
 此の日、頃、愛、咲、つ、ひ、來、ち、ち、と、鳴、く、小、鳥、あ、り、

二、  
 うららかに、飛石は照れど、  
 風冷るかに、静けさ、人の立つ。  
 山寺の真晝、けしき、山茶花を、  
 裏庭に、真盛、り、か、山、茶、花、を、  
 手折りに、か、ね、背、を、見、せ、て、飛、石、に、人、の、立、つ、

三、  
 タ日かげ、母、上、の、障子張、  
 た、一、か、げ、母、上、の、障子張、  
 床、間、の、人、懸、花、瓶、小、暗、る、障子張、  
 前、に、し、て、懸、花、瓶、小、暗、る、障子張、  
 音、な、く、ふ、と、見、て、ほ、ほ、み、て、母、上、の、障子張、  
 散、る、を、と、見、て、ほ、ほ、み、て、母、上、の、障子張、



# 煤 掃

(二聲輪唱)

煤

掃 I

♩ = 84

rit.

II

♩ = 84

rit.

♩ = 84

*p* 右 左 右 *mf*

The piano introduction consists of three staves. The top two staves are vocal staves (I and II) with a tempo of 84 and a *rit.* marking. The bottom staff is the piano accompaniment, starting with a *p* dynamic and a tempo of 84. It features a melodic line in the right hand and a bass line in the left hand, both marked with '右' (right) and '左' (left). The piece concludes with a *mf* dynamic.

*a tempo*  
*mf*

一 ケフ - ハ ス スハキ イ チ ネ ン チユウ ノ  
い へぢゆう - そろ ひ  
ハ キ キ ヨ ムル ハ

*a tempo* *mf*

一 ケフ - ハ ス スハキ  
二 けふ - は す すはき  
三 ケフ - ハ ス スハキ

*a tempo* *mf*

This section contains three systems of music. Each system has a vocal line and a piano accompaniment line. The tempo is marked 'a tempo' and the dynamic is 'mf'. The lyrics are written below the vocal lines. The piano accompaniment consists of chords and a simple melodic line.

九四

煤

掃

*f*

ホ コ リ ヤ ス - ス フ ハ キ キ - ヨ - メ  
か - ぶ る て ぬぐ ひ と る は - は - き  
い - へ ヤ カ マ ド ニ カ ベ ノ - ミ - カ

*f*

イ チ ネ ン チユウ ノ ホ コ リ ヤ ス - ス フ  
い へぢゆう - そろ ひ か - ぶ る て ぬぐ ひ  
ハ キ キ ヨ ムル ハ い - へ ヤ カ マ ド ニ

*mf* *f*

This section contains two systems of music. Each system has a vocal line and a piano accompaniment line. The tempo is 'a tempo' and the dynamic is 'mf'. The lyrics are written below the vocal lines. The piano accompaniment consists of chords and a simple melodic line.

*p*

ヤ カ テ キ タ ラ ン シ ン ネ ン フ  
さ さ の あ を ば を う ち ふ り て  
ハ ラ ヒ キ ヨ メ ン イ ザ ト モ ニ

*p*

ハ キ キ - ヨ - メ ヤ カ テ キ タ ラ ン  
と る は - は - き さ さ の あ を ば を  
カ ベ ノ - ミ - カ ハ ラ ヒ キ ヨ メ ン

*p* *p*

This section contains two systems of music. Each system has a vocal line and a piano accompaniment line. The tempo is 'a tempo' and the dynamic is 'p'. The lyrics are written below the vocal lines. The piano accompaniment consists of chords and a simple melodic line.

九五



mf

ココロ タノシク ム カヘ ナン  
 わらひ な がらの は き き よめ  
 ココロ ノ ス ー ミ ノ ホ コ リ ラ モ

シ ャン ネンヲ ココロ タノシク  
 う ち ふ り て わらひ な がらの  
 イ ザ ト モ ニ ココロ ノ ス ー ミ ノ

mf

1. 2. mf 3. rit.

ニけふーは すすはき  
 ミケフーハ ススハキ  
 ホ コ ー リ ラ モ ー

1. 2. mf 3. rit.

ム カヘ ナン  
 は き き よめ  
 ホ コ リ ラ モ ー

mf

三、煤 掃

三、

心<sup>こころ</sup>は 掃<sup>は</sup>き 今日<sup>けふ</sup>は 笑<sup>わら</sup>ひ 笹<sup>ささ</sup>の 家<sup>いえ</sup>の中<sup>ちゆう</sup> 今日<sup>けふ</sup>は 心<sup>こころ</sup>や 一<sup>い</sup>年<sup>ねん</sup>の中<sup>ちゆう</sup> 今日<sup>けふ</sup>は  
 の ら き 日<sup>ひ</sup>は す す は き ひ な 青<sup>あお</sup>葉<sup>は</sup>を ひ す す は き た が て 来<sup>き</sup>らん 埃<sup>ほこ</sup>や 煤<sup>すす</sup>を  
 隅<sup>すみ</sup>の きよむる は き の り か ぶ る 手<sup>て</sup>拭<sup>ぬぐ</sup>き き よめ 迎<sup>むか</sup>へ 新<sup>しん</sup>年<sup>ねん</sup>を 掃<sup>は</sup>き き よめ  
 埃<sup>ほこ</sup>をも。 (埃<sup>ほこ</sup>をも) い ざ と も に 壁<sup>かべ</sup>の み か。

二、

笑<sup>わら</sup>ひ 笹<sup>ささ</sup>の 家<sup>いえ</sup>の中<sup>ちゆう</sup> 今日<sup>けふ</sup>は 心<sup>こころ</sup>や 一<sup>い</sup>年<sup>ねん</sup>の中<sup>ちゆう</sup> 今日<sup>けふ</sup>は  
 ひ な 青<sup>あお</sup>葉<sup>は</sup>を ひ す す は き た が て 来<sup>き</sup>らん 埃<sup>ほこ</sup>や 煤<sup>すす</sup>を  
 の り か ぶ る 手<sup>て</sup>拭<sup>ぬぐ</sup>き き よめ 迎<sup>むか</sup>へ 新<sup>しん</sup>年<sup>ねん</sup>を 掃<sup>は</sup>き き よめ  
 掃<sup>は</sup>き き よめ とる 笹<sup>ささ</sup>



# 日の御旗

日の御旗

♩ = 112

♩ = 112 行進曲風に

*mf* *f* *tr*

*Red.* \*

行進曲風に

*mf* *f* *mf*

一 ノ ホ ル ヒ ノ ヒ カ リ タ フ ト ク ノ  
 二 の ほ る ひ の ひ か り あ ま ね く の  
 三 ノ ホ ル ヒ ノ ヒ カ リ テ リ ハ エ ノ

*mf* *f* *mf*

*Red.* \*

*f* *mp*

ボ ル ヒ ノ ヒ カ リ カ グ ハ シ ヒ  
 ほ る ひ の ひ か り あ か る し ひ  
 ボ ル ヒ ノ ヒ カ リ ウ ラ ラ カ ヒ

*f* *mp*

*Red.* \*

九八

日の御旗

*mf* *f*

ノ ミ ハ タ ア ア ヒ ノ ミ ハ タ カ  
 の み は た あ あ ひ の み は た ひ  
 ノ ミ ハ タ ア ア ヒ ノ ミ ハ タ カ

*mf* *f*

*mf*

ガ ヤ ク ト コ ロ フ シ ラ ガ ミ ア  
 ら め く と こ ろ う ち あ ふ ぎ と  
 カ ゲ ヨ タ カ ク イ ヤ タ カ ク タ

*mf*

*f* *mp*

ヲ ヒ ト グ サ ハ ミ ナ ナ ビ ク  
 つ く に ひ と も み な し た ふ  
 タ ヘ ヨ ト モ ニ モ ロ ト モ ニ

*f* *mp*

九九



三、日の御旗

一、のぼる日の光たふとく、

のぼる日の光かくはし。

日の御旗 ああ、日の御旗

かがやく所

伏拜み、

あを人草は、皆なびく。

二、のぼる日の光あまねく、

のぼる日の光あかるし。

日の御旗 ああ、日の御旗

ひらめく所

打仰ぎ、

とつ國びとも、皆したふ。

三、のぼる日の光照りはえ、

のぼる日の光うららか。

日の御旗 ああ、日の御旗

かかげよ、高く、

いや高く。

たたへよ、共に、もろともに。



千 鳥

千 鳥

♩ = 112

*mp*

一 ち  
二 ち  
三 ち

♩ = 112

*mp*

ド リ ナ ク - チチチチ トチドリナ  
ど り な く - ちちちち とちどりな  
ド リ ナ ク - チチチチ トチドリナ

*p* *mf*

ク セ ド ニ ツ ヅ ケ - ル カ ハ - ノ ス  
く こ ほ る つ き よ - の し も - の う  
ク ト モ ラ ヨ ビ カ - ヒ ム ツ - マ シ

千 鳥

*f* *mf*

ノ - カ レ シ ア シ マ ニ ト モ チ ド  
へ - ゆ ふ - ベ は ぐ れ し と も よ び  
ク - ツ バ サ ナ ラ ベ テ チ チ ト ナ

*8va.*

*p* *mf* *a tempo* *rit.* **1. 2.** *a tempo*

リ - ト モ ラ ヨ - ビ ツ ツ ナ キ - カ ハ ス -  
て - こ ぶ も あ - は れ に さ び - し げ に -  
ク - サ ム キ ア - シ タ モ タ ノ - シ ゲ

*p* *mf* *a tempo* *rit.* *a tempo*

**3.** *a tempo*

**3.** *a tempo* *pp*



二四、千鳥

一、千鳥鳴く、ちち、ちちと千鳥鳴く。

背戸につづける川の洲の

枯れし蘆間に、友千鳥

友を呼びつつ鳴きかはす。

二、千鳥鳴く、ちち、ちちと千鳥鳴く。

こぼる月夜の霜のうへ、

夕はぐれし友呼びて、

聲もあはれに、さびしげに。

三、千鳥鳴く、ちち、ちちと千鳥鳴く。

友を呼びかひむつましく、

つばさならべて、ちちと鳴く。

寒き朝も、たのしげに。



# 新 島 守

新島守

$\text{♩} = 80$

$\text{♩} = 80$

*p* *mf* *sf* *p*

Fine

*mp* *p*

一 オ キ ノ コ ジ マ ヨ ヤ シ ホ チ ヨ フ  
 ニ ち ど り な く ら ん あ ら い そ ベ た  
 三 ハ ル ハ ジ フ 一 ク ド メ グ ル ヨ ノ ハ

*mp* *p*

*mp*

カ キ ハ カ ラ ヒ タ ツ ー レ ド モ ト  
 た せ た ま ひ て よ ま ー せ け ん に  
 ナ ヤ サ キ ケ ン チ リ ー ニ ケ ン ツ

*mp*

106

新島守

*mf*

キ イ タ ー ラ ネ バ セ ン ナ シ ー ト ウ  
 ひ し ま ー も り よ わ れ こ そ ー は こ  
 ビ シ キ ー カ リ ノ ゴ シ ヨ ニ シ ー テ ス

*mf*

*f*

ツ ラ セ タ マ フ ー ゴ ト バ キ ン オ  
 こ ー ろ し て ふ け な み か ぜ よ お  
 ゴ サ セ タ マ フ ー ゴ ト バ キ ン オ

*f*

*p* *rit.*

ソ レ オ ホ シ ヤ カ シ コ シ ヤ  
 そ れ お ほ し や か し こ し や  
 ソ レ オ ホ シ ヤ カ シ コ シ ヤ

*p* *rit.*

107

\* D.C. al Fine は、歌詞三節反復歌唱の後に適用す。

\* D.C. al Fine



二五、新島守

一、 隠岐の小島よ、 八潮路よ。  
 深きはからひ 樹つれども、  
 時いたらねば 詮なしと、  
 うつらせ給ふ、 後鳥羽院。  
 おそれ多しや、  
 かしこしや。

二、 千鳥鳴くらん 荒磯べ、  
 立たせ給ひて 詠ませけん、  
 新島守よ、 われこそは。

こころして吹け、 波風よ。  
 おそれ多しや、  
 かしこしや。

三、 春は十九度 めぐる世の  
 花や咲きけん、 散りにけん、  
 わびしき假の 御所にして  
 過させ給ふ 後鳥羽院。

おそれ多しや、  
 かしこしや。



冬の興

冬の興

*mp*  $\text{♩} = 76$

—ア サトテヲ マフユノニハノ  
ニや まはたは しづけくく れて

*p*

イケガキニ フトシモヨレバ ラウ—バイ  
が け した の な が れ も こ ほ る ゆ ふ —か ぜ

*mp* *p*

ノ ミナミニ タレーシ ヒトエダニ  
に ふるへ て あれ—ど あをあを と

冬の興

*mp*

ツボミノ ハ ヤモ フトリ タリ  
めだち て む ぎ は の び い て ぬ

*mf* *p*

タカキニ ヒクキニ エダゴトニ フトリユ  
ひごとの さむさも しらぬげに ちかくを

*mp* *p*

ク ツボミノ カズノ フェフエテ  
ば やぶりて むぎの のびのびて



二六、冬の興

一、朝戸出を、真冬の庭の生垣に、

ふとしもよれば、老梅の

南に垂れし一枝に、

苔のはやもふとりたり。

高きに、低きに、

枝ごとに、

太りゆく

苔の数の殖え殖えて。

二、山畑は、静けく暮れて、崖下の

流も凍る夕風に

ふるへてあれど、青青と、

目立ちて、麦は伸びいでぬ。

日毎の寒さも

知らぬげに、

地殻をば

破りて、麦の伸び伸びて。



# 興國の民

(二部合唱)

興國の民

♩ = 72

*f*

I

一 タ テ ヨ ワ カ ウ ド ワ レ  
二 た て よ わ か う ど わ れ  
三 ミ ズ ヤ ワ が ト モ ツ レ  
四 た て よ わ か う ど わ れ

II

一 タ テ ヨ ワ カ ウ ド ワ レ  
二 た て よ わ か う ど わ れ  
三 ミ ズ ヤ ワ が ト モ ツ レ  
四 た て よ わ か う ど わ れ

*f*

*mp*

ラ ガ ト モ イ マ ア カ ツ キ ノ  
ら が と も み よ ひ た ん が し の  
ら が と も ケフ タ タ ズ シ テ  
ら が と も い ざ ま し ぐ ら に

*mp*

ラ ガ ト モ イ マ ア カ ツ キ ノ  
ら が と も み よ ひ た ん が し の  
ら が と も ケフ タ タ ズ シ テ  
ら が と も い ざ ま し ぐ ら に

*mp*

一四

興國の民

♩ = 96

*mp*

カ ネ ハ ナ ル キ リ ハ レ テ ユ ク  
あ か ね ぐ も よ は さ め て ユ ク  
イ ツ カ マ タ タ ツ ヒ ノ ア リ ヤ  
ひ た す ら に と き を し み て は

*mp*

*mp*

ヤ マ ニ ノ ニ ワ ガ テ ワ ガ ア シ ワ  
あ け て ゆ く わ が め わ が み み わ  
ト キ ア リ ヤ コ ノ ヒ コ ノ ト キ フ  
お の が じ し わ が や わ が む ら わ

*mp*

キ リ ハ レ テ ユ ク ヤ マ ニ ノ ニ ワ  
よ は さ め て ユ ク あ け て ゆ く わ  
タ ツ ヒ ノ ア リ ヤ ト キ ア リ ヤ  
と き を し み て は お の が じ し

*mp*

一五



が ち か ー ら ヨ ブ モ ノ ノ ア リ ク  
 が こ こ ー ろ み な さ さ げ な ん く  
 タ タ ビ ー ハ ク ル コ ト ナ キ ヲ  
 が さ と ー の は え い の り つ つ い

が テ ワ が ア シ ワ が チ カ ー ら ヨ  
 が め わ が み み わ が こ こ ー ろ み  
 ノ ヒ コ ノ ト キ フ タ タ ビ ー ハ ク  
 が や わ が む ら わ が さ と ー の は

ニ ー ノ タ ー メ ク ニ ー ノ タ ー  
 に ー の た ー め く に ー の た ー  
 モ ー ハ ズ ー ヤ ー オ モ ー ハ ズ ー  
 そ ー し ま ー ん ー そ ー し ま ー

ブ モ ノ ノ ア リ ク ニ ー ノ タ ー  
 な さ さ げ な ん く に ー の た ー  
 ル コ ト ナ キ ヲ オ モ ー ハ ズ ー  
 え い の り つ つ い そ ー し ま ー

メ ア ア ヨウ ー コ ク  
 め あ あ こう ー こ く  
 ヤ ア ア ヨウ ー コ ク  
 ん あ あ こう ー こ く

メ ア ア ヨウ ー コ ク  
 め あ あ こう ー こ く  
 ヤ ア ア ヨウ ー コ ク  
 ん あ あ こう ー こ く

ノ タ ミ ワ レ タ タ ン  
 の た み わ れ た た ん  
 ノ タ ミ ワ レ タ タ ン  
 の た み わ れ た た ん



一、起てよ、若人、我等が友、今、曉の鐘はなる。  
霧はれてゆく山に、野に、呼ぶものあり、國の爲。(國の爲)

二、起てよ、若人、我等が友、見よ、東のあかね雲、  
世はさめてゆく、明けてゆく。皆さげなん、國の爲。(國の爲)

三、見ずや、我が友、我等の國、今日、起たずして、いつか、また  
起つ日のありや、再びは來ることなきを思はずや。(思はずや)

四、起てよ、若人、我等が友、いざ、ましぐらに、ひたすらに、  
我が家を、我村、我が里の榮、禱りつつ、いそしまん。(いそしまん)

# 胡蝶の舞

(獨唱及び三部合唱)

合唱  
♩ = 100

mf

ア ナ オ モ シ ロ シ コ テ フ ノ マ ヒ

mf

ア ナ オ モ シ ロ シ コ テ フ ノ マ ヒ

f



ミレバワレラモヘウーベウー ト カルキ  
 ミレバワレラモヘウーベウー ト カルキ

*mp*

ツバサニミモウキータ サウシノユメニ  
 ツバサニミモウキータ サウシノユメニ

*p* 稍遅く

*p* 稍遅く

*un poco meno mosso*

*p*

アラネドモ コテフー ト ナレル ココチカ  
 アラネドモ コテフー ト ナレル ココチカ

*a tempo* *rit.*

*f*

*a tempo* *rit.*

*f*

*a tempo* *rit.*

ナ

ナ

ナ

*p*

$\bullet = 160$

$\bullet = 160$

$\bullet = 160$



第一ソプラノ獨唱(胡蝶の歌)

♩ = 84

*mf*

ヒロキシセンノフトコロニ　　ワレハコトフート

*mf*

*f* *mp*

ウマレキテ　　ハルハタンポポ　　ツボスマレ　　サクラヤマブキ

*f* *mp*

*mf* *poco rit.* *a tempo*

ボタンノハーナ　　センシバンコウ　　ノスカタラ　　メテ　　アシ

*mf* *poco rit.* *a tempo*

タノツユヌレジトラ　　ツバサカヘセバ　　ヤハラカク

*f*

ニホヒノナミノヒラメキテユメ　　—ツ—ツツナル

*mp* *rit.*

ココ　　—ロ—カ　　—ナ

*mp* *rit.* *p*

*And.* \*



合唱  
♩=100

ア ナ オ モ シ ロ シ コ ラ フー ノ マ ヒ ミ レ バ ソ レ ラ モ

ア ナ オ モ シ ロ シ コ ラ フー ノ マ ヒ ミ レ バ ソ レ ラ モ

♩=100

ア ナ オ モ シ ロ シ コ ラ フー ノ マ ヒ ミ レ バ ソ レ ラ モ

♩=100

*f*

ヘ ツ - ベ ヲ - ト カ ル キ ツ バ サ ニ ミ モ ウ キー テ

ヘ ツ - ベ ヲ - ト カ ル キ ツ バ サ ニ ミ モ ウ キー テ

ヘ ツ - ベ ヲ - ト カ ル キ ツ バ サ ニ ミ モ ウ キー テ

*mp*

*mp*

*mp*

稍遅く *a tempo*

サウ シノ ユ メ ニ ア ラ ネ ド モ コ ラ フー ト ナ レ ル

サウ シノ ユ メ ニ ア ラ ネ ド モ コ ラ フー ト ナ レ ル

稍遅く *a tempo*

サウ シノ ユ メ ニ ア ラ ネ ド モ コ ラ フー ト ナ レ ル

*un poco meno mosso* *a tempo*

*p* *f*

*rit.* ♩=160

コ コ ロ カ ナ

コ コ ロ カ ナ

*rit.* ♩=160

コ コ ロ カ ナ

*rit.* ♩=160

*p*



第二ソプラノ獨唱(胡蝶の歌)

♩ = 84

*mf*

ア ラ バワカバノ モリノカゲ ナツクサシゲキ ヒロキノニ

*mf*

*f*

マヒツカレテハ イハシミツ セセラグミツラ ムスビツ

*p*

ツ ハ ナニイコヒ コケニフシテ

*p*

*mf* *f* *mf*

ツヨキシゼンノチカラニフルレバカヨ

*mf* *f* *ten.* *sf*

*f* *cresc.*

ソキコテフノミニモマタイノチアフレテソラタカク

*poco rit.* *a tempo*

トビモコーソユケ

*poco rit.* *a tempo*

*ff* *mf*



合唱

♩=100

mf

ア ナ オ モ シ ロ シ コ テ フ ノ マ ヒ ミ レ バ ワ レ ラ モ

mf

ア ナ オ モ シ ロ シ コ テ フ ノ マ ヒ ミ レ バ ワ レ ラ モ

f

♩=100

f

ヘ ウ ベ ウ ト カ ル キ ツ バ サ ニ ミ モ ウ キ テ

mp

mp

mp

稍遅く

*a tempo*

*p* サウ シ ノ ユ メ ニ ア ラ ネ ド モ コ テ フ ト ナ レ ル

*f*

*p* 稍遅く *f* *a tempo*

サウ シ ノ ユ メ ニ ア ラ ネ ド モ コ テ フ ト ナ レ ル

*un poco meno mosso* *a tempo*

*p* *f*

*rit.*

♩=160

ココロ カ ナ

*rit.* ♩=160

ココロ カ ナ

*rit.* ♩=160

*p*



アルト独唱(胡蝶の歌)

♩ = 84

*mp*

ア キカゼ アラク ヲ メタケ レード

♩ = 84

*p*

*mf*

ナ ホサ キ キ ソーフ ナナク サノ

*mf*

*mp*

ハ ナヲ シトーネト スルトーキ ハ オホ

*p* *mf*

アメツチーノオ クーフカーキ ココロオノヅト

*cresc.* *f*

サトラレタ チ マフツバサ モヤス ラーケ

*rit.*

シ

*mf* *rit.*



合唱  
♩ = 100

ア ナ オ モ シ ロ シ コ テ フ ー ノ マ ヒ ミ レ バ ソ レ ラ モ

mf

ア ナ オ モ シ ロ シ コ テ フ ー ノ マ ヒ ミ レ バ ソ レ ラ モ

♩ = 100

mf

ア ナ オ モ シ ロ シ コ テ フ ー ノ マ ヒ ミ レ バ ソ レ ラ モ

♩ = 100

f

ヘ ウ ベ ヲ ト カ ル キ ツ バ サ ニ ミ モ ウ キ ー テ

mp

ヘ ウ ベ ヲ ト カ ル キ ツ バ サ ニ ミ モ ウ キ ー テ

mp

ヘ ウ ベ ヲ ト カ ル キ ツ バ サ ニ ミ モ ウ キ ー テ

mp

稍遅く a tempo

サ ウ シ ノ ユ メ ニ ア ラ ネ ド モ コ テ フ ー ト ナ レ ル

p f

サ ウ シ ノ ユ メ ニ ア ラ ネ ド モ コ テ フ ー ト ナ レ ル

p 稍遅く a tempo

f

サ ウ シ ノ ユ メ ニ ア ラ ネ ド モ コ テ フ ー ト ナ レ ル

un poco meno mosso a tempo

p f

rit. ♩ = 160

コ コ チ カ ナ

コ コ チ カ ナ

rit. ♩ = 160

コ コ チ カ ナ

コ コ チ カ ナ

rit. ♩ = 160

p



舞まひつつかかれれててはは 岩いわ清せい水すい  
せせせせららぐぐ水みづをを むむすすびびつつ  
花はなにに 憩いひひ 苔こけにに 伏ふししてて  
強こきき自じ然ぜんのの 力ちからにに ふふるるばば  
かかよよわわきき胡こ蝶てつのの 身みににももまたた  
命いのちああふふれれてて 空そら高たかくく  
飛とびびももここそそゆゆけけ。

合唱

ああななおおももししろろしし、 胡こ蝶てつのの 舞ま  
見みれればば、 我われ等らもも 縹ひら渺びょうとと、  
かかるるききつつばばささにに 身みもも浮うききてて、  
莊しやう子しのの 夢ゆめにに ああららねねどどもも、  
胡こ蝶てつととななれれるる 此ここころろかかなな。

胡蝶の歌

秋あき風かぜああららくく、 冷ひやたたけけれれどど、  
ななほほ咲さききききそそふふ 七なな草くさのの  
花はなををししととねねとと ずずるるととききはは、  
大おほ天てん地ちのの 奥おくふふかかきき  
こここころろおおののづづとと ささととらられれてて、  
たたちち舞まふふ翅はねもも ややすすららけけしし。

合唱

ああななおおももししろろしし、 胡こ蝶てつのの 舞ま  
見みれればば、 我われ等らもも、 縹ひら渺びょうとと、  
かかるるききつつばばささにに 身みもも浮うききてて、  
莊しやう子しのの 夢ゆめにに ああららねねどどもも、  
胡こ蝶てつととななれれるる 此ここころろかかなな。



二八 胡蝶の舞

合唱

あな おもしろし、 胡蝶の舞、  
 見れば、我等も 縹渺と、  
 かるきつばさに 身も浮きて、  
 莊子の夢に あらねども、  
 胡蝶となれる ころかな。

胡蝶の歌

廣き自然のふところ  
 我は胡蝶と生まれ来て、  
 春はたんぼぼ・つぼすみれ、  
 櫻・山吹・牡丹の花、  
 千紫萬紅の姿をめで、

あしたの露にぬれじとて  
 翅かへせば、やはらかく  
 句の波のひらめきて、  
 夢うつつなるころかな。

合唱

あな おもしろし、 胡蝶の舞、  
 見れば、我等も 縹渺と、  
 かるきつばさに 身も浮きて、  
 莊子の夢に あらねども、  
 胡蝶となれる ころかな。

胡蝶の歌

青葉・わか葉の森の影  
 夏草しげき 廣き野に、



大原御幸

大原御幸

♩ = 92

*p*

ハ ル ノ

サ カリ モー ス ギ サ リ

サ クラ モ チ レール キ タ ヤ マ

*mp*

ニ ヤ マ ホー ト ト ギ ス

*mf*

ナ ク コ ロ オ ハー ラ ノ

*mf*

オ ク ニ ツー ケー イ リ テ

*f* *cresc.*

ジヤーク ツウ キンニ

*ff*

ゴカウアーリシ

大原御幸



decresc.

smorzando

rit. p a tempo

オ ホ ミ コ コ ロ ノ

rit. a tempo p

mp

ヤ サ シ サ フ

mp

mf

シノビマツルモ タフ ート シ ヤ ー

mf

\*朗讀風に

p

ヒトアト ターエシ ヤマオーク ニ ヒキム ス

col

mp

バーレシ ゴアンジーツ ノ ノキニハツ タ

mp

はやめに

V

ア サガホハヒカカリ シノブマジリノ ワスレーグサノ

\* 此の記號より次の同記號までは、樂譜に表されたる朗讀體によらずして、普通讀本を朗讀する場合に準じ、自由に取扱ふも可なり。



オヒタル モカーナシキ ニ ス ギノフキメ

マ - バラニシ テ フウ - ロノ シノギサヘ カ - タキト - コロ

ニ ライガウノ サンゾンヲカザリ セ ンダイノ

ミ エイヲ カ - ケターテ マ - ツリ テ オ - コナヒ

スマシタマフ サヘアル ニ オ ンミヅカラ

イ - ハノ カ - ケチヲツタヒ ツ ツ ミ - ホトケニ

タ テマ - ツルハ ナ ヲモ ヲリ - アツメタ マフ ラゴ ラウジ

テ ホフ - ワウ - モ シ - バシ オ ンナ - ミダ - ニ



*p* *mp*

ムセ ビタマヘリ ユメーノゴトキ ゴサイクワイ

*mp* *mf* *mp*

イーカバカリ カウレシクモ マータカナシク オホー

*rit.* *a tempo* *rit.* \*

シタマヒケーン

*(a tempo)* *mp* *mf* *rit.*

Tempo I *p*

トキノ

Tempo I *p*

ナガレーノウーツロヒ

ヒトノエイグワモアサツユ

*mp*

ノキユルニニルヲ

*mf*

ナゲキテホートケノ

*mf*



Musical notation for the first system on page 146, including vocal line and piano accompaniment.

ミ チ ニ イ リ マ セ ル

Musical notation for the second system on page 146, including vocal line and piano accompaniment.

*f* *cresc.*  
オ ン ミ ナ ガ ラ モ

Musical notation for the third system on page 146, including vocal line and piano accompaniment.

*ff*  
イ カ バ カ リ

Musical notation for the fourth system on page 146, including vocal line and piano accompaniment.

*decresc.*

Musical notation for the first system on page 147, including vocal line and piano accompaniment.

*rit.*  
*smorzando* *rit.*

Musical notation for the second system on page 147, including vocal line and piano accompaniment.

*p* *a tempo*  
ッ キ ス ナ ゴ リー マ シ マ セ

Musical notation for the third system on page 147, including vocal line and piano accompaniment.

*mp*  
テ ニ ヨ ウ キ ン モ

Musical notation for the fourth system on page 147, including vocal line and piano accompaniment.

*mf* *rit.*  
ターチツクシ タ マ ヒ ケ ン



二九、大原御幸

春のさかりも過ぎさり、  
 さくらの散れる北山に、  
 やまほととぎす鳴くころ、  
 大原の奥に分けいりて、  
 寂光院に御幸ありし  
 大御心のやさしさを、  
 しのびまつるも尊しや。

朗讀

人跡たえし山奥に、ひきむすばれし御庵室の、  
 軒には蔦・あさがほはひかかり、しのおまじ  
 りの忘草の生ひたるもかなしきに、杉のふき  
 めまばらにして、風露のしのぎさへかたきと  
 ころに、來迎の三尊を飾り、先帝の御影をか

け奉りて、行ひすまし給ふさへあるに、御み  
 づから岩のかげぢを傳ひつつ、御佛に奉る花  
 をも折集め給ふを御覽じて、法皇も、しばし  
 御涙にむせび給へり。夢の如き御再會、いか  
 ばかりか嬉しくもまたかなしく覺し給ひけん。

時の流のうつろひ、  
 人の榮華も、朝露の  
 消ゆるに似るを歎きて、  
 佛のみちに入りませる  
 御身ながらも、いかばかり  
 つきぬ名残をしませて、  
 女院も立ちつくし給ひけん。



新訂  
高等小學唱歌  
伴奏附

不許複製

初

第三學年用

定價金五拾五錢

昭和十年九月十日印刷  
昭和十年九月十四日發行

文部省

著作權者 文 部 省

東京市京橋區銀座一丁目五番地

發行者 大日本圖書株式會社

代表者 專務取締役 杉山常次郎

東京市小石川區久堅町百〇八番地

印刷者 大橋光吉

東京市小石川區久堅町百〇八番地

印刷所 共同印刷株式會社

東京市京橋區銀座一丁目五番地

發行所 大日本圖書株式會社

振替貯金口座〔東京二一九番〕電話京橋二七三番二七四番

広島大学図書

0130449484

